

会長就任のご挨拶

会長 藤原 政嘉



第9回公益社団法人大阪府栄養士会定時総会におきまして、会員の皆様のご支持のもと、前回に引き続き会長（代表理事）に就任することになりました。皆様からのご支援、ご指導に心から感謝申し上げます。

コロナ問題もコロナと共生する方向になってきたように感じますが、まだまだ新たな感染者が多く予断を許せません。昨年は一昨年に続き、新型コロナウイルスへの対応に沿って3密を避け、ITを活用した遠隔による各種研修会となりました。また、市中ではコロナ感染防止が優先された環境の中で多くの人は会食、外食の機会が少なくなり中食やデリバリーによる食事を利用する人が多くなり、その内容には栄養バランスを欠いたものもあるようです。しかし、この状況の中、栄養バランスを考慮した良質な弁当やデリバリー食事が多くなってきたことも見逃せません。この間の食生活が今後の健康や食育推進事業、食文化の継承にどの様に影響が出てくるか検証していくことが我々管理栄養士・栄養士の仕事と思います。

本会は公益性を持った事業の運営を基軸としております。

現在、本会が抱えている大きな課題として、一つ目は「栄養ケア・ステーション事業の運営」です。現在、事務局に設置しております栄養ケア・ステーションを地域・地域の津々浦々に拡大し、府民の皆様や関係職種の皆様にご理解いただき、見える活動へと展開したいと考えております。そのため、社会から信用され、尊重される働きをするために登録管理栄養士の資質の担保と登録管理栄養士の増員が急務となっています。今後、要求が高まるとされる「在宅栄養ケア」や「地域ケア会議」へ参画にも視野に入れ、役割を果たして行く必要があると考えております。

二つ目の課題として、「会員数の増加に向け

ての取り組み」です。組織はその組織を形成する数により評価される場合が多くあります。近年は同業の仲間意識や先輩・後輩の意識の希薄さ、またITの発達により情報の取得は十分に可能になったことなどから会員としての価値観が薄らぎ、栄養士会会員という意識に変化をもたらせたように感じます。時々入会することによるメリットを求める人がおられますが、私は会員になれることが最大のメリットと思っております。会員になり活動（研修会参加、情報の交換、雑誌の購読、仲間づくり等）すれば、そこにメリットがついてきます。是非、周囲に未入会の管理栄養士・栄養士がおられましたら入会への勧誘をお願いいたします。一人でも多くの仲間をつくり3000名を達成したいと思っております。何れにしましても会員あつての栄養士会です。栄養士会の役割と管理栄養士・栄養士という専門職の要の組織であることを理解してもらい必要があると感じております。

三つめの課題は「会員の質的担保を図るための生涯教育」です。内容もCE（Continuing

Education：生涯教育）から継続的な自己研鑽をめざす生涯職能CPD（Continuous

Professional Development：生涯職能開発）へ移行し、自らが目標を決め学習し、キャリアを支援するためスキルの到達度に応じた認定制度（専門分野、特定分野）を設けられております。会員の皆様も是非、日進月歩する栄養・食生活に関する情報を生涯教育の受講により取得され、スキルの持続とアップを図っていただきたいと思っております。

栄養士会は皆様からの会費を有効活用し、種々の研修会の開催、ホームページや会報の出版等で情報の伝達等をし、会員皆様へのサービスに努めておりますが、ホームページの閲覧、会報の購読などを積極的にしていただき栄養士会事業へのご意見や種々の情報をいただければ幸いです。全理事が知恵をしぼって会員の皆様のニーズに応えられるよう頑張りたいと思っております。

終りにあたり、会員の皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念しまして就任の抱負と挨拶とさせていただきます。